

〈児童生徒の実態〉
 ・学校に通う児童生徒の8割以上が隣接する静岡済生会療育センター令和に入所している。
 ・全児童生徒の約半数が訪問教育生。
 ・児童生徒が少なく、少人数学級である。
 ・様々な面で経験が少ない

学校教育目標
 自ら学び 生活を高める 心豊かな子

〈自校の人権課題〉
 ・自分や友達の良さや頑張りに気づき、具体的に表現し合う環境づくり。

目指す学校像

- 児童生徒の将来像を見据え、ステップアップ、学びの連続性を支える学校
- 命、心身を大切に、互いを思いやり児童生徒、教職員が穏やかで和やかに過ごせる学校
- 児童生徒の学びを支えてくれる人と共に歩み、共生社会づくりに貢献する学校

各教科等における指導の重点		
各教科等 ○自己肯定感を高める授業づくりの推進 ○主体的な学習活動の展開 ○伝え合う力の育成 ○生活年齢に合わせた授業展開 ○安心して学習に取り組むことができる環境の設定	自立活動 ○心理的な安定 ・気持ちのコントロールや適応 ・意欲の向上 ○人間関係の形成 ・自他の理解 ・対人関係と集団参加の基礎 ○コミュニケーション ・場や相手に応じたコミュニケーション	特別活動、総合的な学習の時間等 ○一人一人が存在感を感じられる活動の設定 ○友達との協力、役割の遂行 ○様々な人との関わりの拡大 ○人との接し方、マナーの獲得 ○人のためにできる活動・行動

学部の取組〈児童生徒の発達段階に即した人権に関する取組〉

小学部	中学部
目標〔生き生きと活動する〕 ・一人一人を尊重した言葉掛けや接し方することで、安心できる環境作りをする。 ・人と気持ちを通わせることの心地よさを感じることを大切にする。 ・友達に自分の意見を伝えたり、友達の意見に耳を傾けたりする力をつける。 ・児童の良さを見つけ、伝えていくことで、自己肯定感をもてるようにする。 ・自分で考えたり、考えたことを言葉や動きで伝えたりできる学習活動を計画する。 ・生活経験を広げ、学びの楽しさを感じられる体験的な活動を設定する。 ・児童同士が互いに理解を深める三校による学校間交流（静岡市立西豊田小学校・静岡県立静岡視覚特別支援学校）を実施する。	目標〔進んで活動する〕 ・言葉や接し方に心を配り、生徒一人一人を尊重し、安心して過ごせる環境作りをする。 ・生徒と視線を合わせる等丁寧に接し、生徒の表出や動き出しを待つことを大事にする。 ・自分の思いを自分らしい方法で発表したり、友達の意見を聞いて受け入れたりすることができるようにする。 ・自他の良さに気づき、互いに認め合える場や、自己肯定感を高められるような機会を設ける。 ・生徒同士が互いに理解を深める学校間交流（静岡市立豊田中学校、静岡県立中央特別支援学校、静岡県立静岡視覚特別支援学校）を実施する。
訪問教育 目標〔生活を楽しむ〕 ・児童生徒の表出を共感的に受け止め言葉に表すことで、安心して気持ちを伝えられるようにする。 ・各学部や学年・学級の児童生徒との交流を実施し、互いの理解を深められるようにする。	

〈教員の取り組み〉
 本年度の取組目標：児童生徒・教職員が自己や仲間を理解し、互いに認め合い大切にする教育の充実
 ・温かみのある言葉掛けや働き掛けについて、学習グループ毎の人権ディスカッションを年3回行う。
 ・年3回、人権チェックシートによる自己評価を行い、人権感覚を高める。
 ・外部講師による講話とワークショップを取り入れた夏季人権研修を行う。